

第1回小樽市健康増進計画評価会議 会議録（案）

開催日時 平成27年11月12日（木） 午後6時30分から午後8時

開催場所 小樽市保健所3階講堂

出席状況 ○委員

中川委員（学識経験者）、市村委員（小樽市歯科医師会）、渡辺委員（小樽薬剤師会）、
山本委員（小樽青年会議所）、中村委員（小樽市商店街振興組合連合会）、吹田委員（小樽市
民間保育協議会）、林委員（小樽私立幼稚園連合会）、嶋田委員（小樽食生活改善協議会）

以上8名

○小樽市

保健所 秋野所長、犬塚次長、中村主幹、山谷主幹、

健康増進課 宇田川課長、鎌田主査、藤川主査、山本主査、須摩主査、菊地主査、
木村主査

医療保険部 国保年金課 伊藤課長

以上12名

（欠席委員）：近藤委員（小樽市医師会）、新川委員（小樽市総連合町会）

会議要旨

1. 開会

2. 挨拶 小樽市保健所 秋野所長

- ・小樽市健康増進計画（第2次健康おたる21）の進行については、国からの指針に基づきソーシャルキャピタルに依拠した動きへと変化してきています。

ソーシャルキャピタルとは、これまでのような保健所などの行政が先に立って進めて行くものではなく、実際に市民に接している方々、小樽市民に影響力を持っている団体の方々などに自主的に力を発揮していただくという意味であり、保健所の都合やアイディアにこだわらず、委員の皆さんから忌憚のない御意見で健康づくりを効果的に進めていただきたいと思います。

- ・実際に健康づくりを進めていく健康づくり推進ネットワーク会議でも、施策の進捗状況は把握していきませんが、それとは異なる立場、視点で実績評価や進行管理を行ってほしいと考えています。

3. 委員紹介

4. 関係課長及び事務局紹介

5. 会長選出 学識経験者 中川委員に決定

副会長選出 小樽市医師会 近藤委員に決定

6. 報告

（1）小樽市健康増進計画「第2次健康おたる21」の策定経過及び推進体制について

事務局説明：

- 「第2次健康おたる21」は、健康増進法に基づく市町村の健康増進計画で、平成25年度から平成34年度において健康づくりの指針となるものです。

総花的な内容であると評価を受けた「第1次健康おたる21」の反省を受け、「第2次健康おたる21」の策定に当たっては、小樽市民の現状に即した施策となるよう、パブリックコメントにより市民から御意見をいただき、関係団体と一緒に計画を作成しました。

また、市民1,900人や高校生に対するアンケート調査により様々な健康課題を抽出し、それらの解決に向けて、具体的な施策を展開しています。

- 「第2次健康おたる21」の特徴は、①国が示す生活習慣病に関する領域の他に、感染症領域を含めたこと、②健康づくりに意識の高い人もそうではない人も、社会全体で健康づくりを支える環境を整備することで、市全体の健康度を高める仕組みとなるよう、町内会や地域関係団体、教育関係団体等で構成された小樽市健康づくり推進ネットワークを立ち上げたこと、③「第1次健康おたる21」では多面的な評価が不十分であったという反省を生かし、小樽市健康増進計画評価会議を立ち上げたことが挙げられます。

これら2つの会議の立ち上げには、委員の皆様から様々な意見をいただきながら、小樽市民を健康へ導くためのネットワークの拡大、適切な評価の実施を意識しました。

(2) 第1回小樽市健康づくり推進ネットワーク会議報告

平成27年9月1日、16名（19名中）の委員の出席を得て開催し、次のような意見をいただきました。

- 情報発信の仕方に工夫が必要（SNS等を活用した情報発信、対象を明確にした内容、健康メッセージを印刷したネットワーク委員名刺作成など）。
- 笑いの要素や耳から入る情報を意識する。
- 幼稚園等との連携。
- 「小樽市健康づくりウォーキング推進事業」で養成されるウォーキングサポーターの募集条件から年齢制限を外したほうがよい。

これらの意見については、第2回小樽市健康づくり推進ネットワーク会議（平成27年11月下旬～12月上旬開催予定）で更に検討を行い、修正が必要なものについては、平成29年度中間評価に合わせ、軌道修正を行う予定です。

(3) 小樽市のこれまでの健康づくりの取組と進捗状況について

「第2次健康おたる21」関連事業18施策の取組、進捗状況について、次のような意見をいただきました。

- 健康寿命の延伸、特に最期まで口から食べられる幸せ、メリットを大切に考えている。平均寿命と一緒に健康寿命という視点でも、小樽市の現状をみてほしい。
- また、小樽市は精神疾患による医療費が高い傾向にあることから、今後精神保健対策が必要。
- がん検診受診率の実績と目標値が大きく乖離しており、目標値の修正若しくは実施内容の見直しが必要。受診勧奨の方法や回数、文面などを工夫し、周知活動や未受診者対策をもっと丁寧に行うべき。

（目標値は国の流れに準じて、毎年上がっていく仕組みとなっているが、保健所としても目標

値の設定については判断に迷うところである。評価会議での意見を参考に、必要時再検討する予定。勧奨方法として、個別通知、クーポン券配布、医療機関での受診体制整備、チラシ、広報掲載等実施してきたが、受診率向上には限界を感じており、本会議に参加していただいている委員とのネットワークやマーケティングの手法等を取入れ、事業内容を検討したいと考えている旨回等。）

- このような取組内容や保健所の活用方法が、市民にどの程度伝わっているのか疑問。たくさんの方に伝えることも必要だが、目標数云々ではなく、一人でも多くの方に分かりやすく、端的に伝えることが大事。
- ゆるキャラを活用した事業 PR が良い。
- かかりつけの病院や薬局を持つよう促し、医師等から保健所の役割を伝えてもらう、情報発信してもらうなど、医療機関と協働して健康の大切さを伝えていくことが必要。
- 食育は日常生活において当然のことなので、余計取組みが難しい。「元気に生まれ育つ」という一連の流れから、周産期対策とも連携し、その重要性を理解してもらえらるような関わりが必要。

7. 議事

(1) 今後のスケジュールについて

- 第2回評価会議は平成28年2月頃の実施を予定しています。
今後は、平成29年度の中間評価に向け今年度からアンケート調査の準備を始め、平成28年度早々には市民の皆様へアンケートを送付する予定でいます。その後、まとまったアンケート結果を基に、後期計画案と一緒に検討していただくこととなります。

(2) 「第2次健康おたる21」の中間評価及び「小樽市食育推進計画」の最終評価アンケートの同時実施について

- 「小樽市食育推進計画」の計画期間は平成23年度から27年度までとなっていますが、作成に当たり、「第1次健康おたる21」と整合を図ったことから、施策、評価内容が同じような内容となっています。
このことから、「小樽市食育推進計画」の計画期間を平成29年度まで延長し、最終評価アンケートと「第2次健康おたる21」の中間評価（平成28年度）と合わせて実施する流れを検討しています。また、「第2次健康おたる21」後期計画より、「小樽市食育推進計画」と「第2次健康おたる21」が一つになる予定です。

議事（1）、（2）について承認される。

8. その他

特記事項なし

9. 閉会